

1. 略歴

1989年3月	大阪大学文学部史学科西洋史学専攻 卒業
1991年3月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程史学専攻 修了
1997年9月	同 博士後期課程 単位修得退学
1997年11月	パリ第1大学 博士(歴史学) 学位取得
1999年10月	大阪大学大学院文学研究科 助手
2000年4月	徳島大学総合科学部 助教授
2012年4月	上智大学文学部史学科 准教授
2014年4月	同 教授
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近現代史

b 研究課題

19世紀パリの政治社会史、フランス共和主義の政治文化、近代フランスにおけるカトリシズム

c 概要と自己評価

研究では、上記「b. 研究課題」に挙げた3つのうちカトリシズムに関していくつかの成果を刊行することができた。

19世紀パリの政治社会史については、科研費(基盤C)を得て民事籍簿復元事業の研究を開始した。教育では、フランス史研究者の育成に努めた。研究と教育の双方において、基本的な責務を果たしたと考える。

d 主要業績

(1) 著書

共著、南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編、長井伸仁著、『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』、ミネルヴァ書房、2016.2

共著、鹿島徹、越門勝彦、川口茂雄編、『リクール読本』、法政大学出版局、2016.7

共著、中野智世、前田更子、渡邊千秋、尾崎修治編、『近代ヨーロッパとキリスト教—カトリシズムの社会史—』、勁草書房、2016.10

共著、指昭博、塚本栄美子編、長井伸仁ほか著、『キリスト教会の社会史—時代と地域による変奏—』、彩流社、2017.9

(2) 論文

長井伸仁、「現代の「祈り、働き」—第二次世界大戦後のフランスにおける労働司祭—」、『歴史と地理—世界史の研究—』、第249号、1-15頁、2016.11

長井伸仁、「第二次大戦後のフランスにおける司祭と労働について」、『文化交流研究』、第30号、43-51頁、2017.3

長井伸仁、「上智大学における学徒出陣—その歴史と記憶—」、『上智史学』、第62号、17-38頁、2017.11

(3) 解説

長井伸仁、「イエズス会フランス管区文書館を訪れて」、『上智ヨーロッパ研究』、第9号、177-179頁、2017.3

NAGAI Nobuhito, « Paul Feller, vu par un historien », *Transmettre* (Association des Amis de Paul Feller), no. 14, pp. 16-17, 2017.6

(4) 学会発表

国内、長井伸仁、「上智大学の学徒出陣—その歴史と記憶—」、上智大学史学会例会、2016.10.29

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

非常勤講師、上智大学、「歴史学研究入門」、2016.4~2016.7

(2) 学会

国内、日本西洋史学会、『西洋史学』編集委員、2017.4~